

人間科学セミナー



学生さんおすすめ！
ご研究をのぞいてみませんか

7/11(木) 13:30～

場所：大阪大学大学院人間科学研究科
北館2F ラーニングcommons

参加自由・申し込み不要

13:30 - 14:00

共生学系 佐伯いく代 先生

レガシー・ツリー



14:00 - 14:30

教育学系 直原康光 先生

親の別居・離婚の子どもへの影響に関する研究状況について



14:30 - 15:00

行動学系 中川威 先生

老い、病み、死ぬとしても、人は幸福に生きられるか
ー縦断研究からの知見ー



佐伯いく代 先生（共生学系）

レガシー・ツリー

樹木の中には人の寿命をゆうに超えて生きるものがあり、大樹に育った木々は、そこで起こった出来事や、人と森との関わりの歴史を知る遺産として捉えることができる。私は2021年から2022年にかけて、屋久島において樹齢1000年を超えるヤクスギの樹の上に登り、そこに生息する動植物について調べるという貴重な機会をいただいた。荘厳な巨木林としてのイメージの強いヤクスギ林であるが、過去には激しく伐採され、大量の木材が島外に搬出された。しかし当時、樹形が悪いなどの理由で価値がないとみなされ、森の中に残されたヤクスギの樹上には、豊かな生物多様性が育まれていた。これらのヤクスギは、人と自然との共生のシンボルとなり、屋久島が世界自然遺産として登録される理由の一つとなっている。本発表では、人為攪乱や紛争などを生き抜いた樹木の価値を再考し、未来に引き継ぐ意義について議論したい。

直原康光 先生（教育学系）

親の別居・離婚の子どもへの影響に関する研究状況について

日本では年間約18万人の子どもが親の離婚を経験します。欧米を中心とした研究によれば、親の別居や離婚は、子どもの様々な適応の側面にネガティブな影響を与えるとされていますが、親の別居や離婚を経験し一時的に不適応に陥ってもそこから回復していくことができる子どもとそうでない子どもがいるとされています。そのため、親の別居や離婚を経験した子どもを一括りにするのではなく、子どもの適応に違いをもたらす要因を明らかにすることが重要と考えられます。日本において離婚家族を対象とした研究は少ないと指摘されてきましたが、社会的な関心の高まりとともに、近年では研究が増加しつつあります。本報告では、国内外の研究を概観し、現在までに分かっていることをまとめつつ、研究結果を支援にどのように活かすことができるのかについても考えていきたいと思えます。

中川威 先生（行動学系）

老い、病み、死ぬとしても、人は幸福に生きられるかー縦断研究からの知見ー

人がどのように発達し、加齢するかは、その人が生まれた社会と時代によって異なります。現代の多くの国で、人はかつてないほど長生きできるようになっています。ですが、その人が生まれた社会と時代によらず、人生において対処すべき課題があります。主な課題として、老いること、病気になること、死ぬことという人生で避けることができない困難が挙げられます。

この発表では、同一人物を追跡する縦断研究からの知見に基づいて、人生の困難に直面したとしても、高齢期において人は幸福に生きられるかを報告します。未来の社会と時代でどのような知見が必要になるか、どのような研究をこれから行っていきたいか、行っていくべきか、セミナーに参加される方々とともに考えるきっかけにできれば嬉しいです。